「自分のお客さんから直接注文をいただき、お客さんの要望を引き出し、自分のところのオリジナルの提案で家造りをしたいと思い、この道に入りました。ですから、ゼネコンやハウスメーカの下請けはしない、それをモットーにやってきました」。こんな言葉をさらりと言ってのけるが、偉ぶったところがまったくない。実に物腰が柔らかい。

身体と健康が一番の資本

北村工務店（京都建築国民健康保険組合）

北村（きたむら）　喜義（きよし）さん(65)

父と愛犬と共に

16 歳から仕事を始め、この春まで、新築・リフォームを手掛ける株式会社・北村工務店（京都市北区）の代表取締役だった。３代目の息子さんに会社を任せた後は、一事業主として今も現場に立つ。父親や職人さんの後ろ姿を現場で見つめながら、技能や知識を磨いてきた。「いい仕事をして、お客さんに喜んでもらいたい。喜んでもらえる仕事をやり続けるためには、手間暇を惜しまない。家を建てて終わりではなく、お客さんとの縁を大切にしてきました」。一貫した地道な姿勢と誠実さで、時代の大波を乗り超えてきた。

「私を信じて頼ってくれるお客さん、一緒に働く職人さん、そして自分の家族を背負って、仕事をしているわけですから、責任は重い。だからこそ、身体(からだ)と健康が一番の資本なんです」。全京都建築労働組合副委員長や京都建築国保組合副理事長の要職を今春で退任したが、長年勤めてきただけにその言葉には重みと説得力があった。

「一番大事なのは、それはもう食生活です。決まった時間にきちんと三食を取る。特に朝食は、野菜を中心にヨーグルト、青汁、グレープフルーツ、バナナ、納豆、コーヒが定番のメニューです」。古里・滋賀県高島市で北村さんの父親の世話をする奥さんとは別居生活だ。「11 年前から単身赴任みたいなものですから、自分で買い物をし、三食とも自分で作ります。ああ、それから健康診断は年２回受けています。体のチェックは欠かせませんから」

息抜きは、一日の仕事と用事を終えた後に行く銭湯だ。「自宅の風呂に入るのは年に２～３回。学生や年金生活のおじいちゃんらと裸の付き合いでスポーツから政治の話をするのがなんとも楽しい」。琵琶湖が望める古里に帰り、柴犬とトイプードルと過ごすひと時は、最高の癒しの時だという。「瞬間、瞬間を天真爛漫に生きている犬から、人生のいろんなことを教えてもらっています」。携帯電話の中から笑いかける二匹の愛犬に、満面の笑みだった。